



あけましておめでとうございます(境野：山口牧場にて撮影)

新春のごあいさつ



宝塚市議会議長

小山 哲史

新春を寿ぎ、謹んで市民の皆様のご健勝とご多幸をお慶び申し上げます。

日頃は、市議会運営に対し、深いご理解と温かいご支援をいただき、厚く御礼を申し上げます。

昨年来、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した金融危機が世界的な拡がりを見せ、日本経済にも大きな影響が及んでおります。

このような背景のもと、本市の財政状況も一段と厳しさを増している中、更なる行財政改革を推進するとともに、限られた財源で市民福祉の向上が図れるよう、一層の調査研究等に務める決意を新たにしているところでございます。

一方、地方分権の進展に伴い、時代に即応した「開かれた議会」を推進するためには、市民の皆様との連携が不可欠であると考えております。このような観点から、昨年来実施しております議会研修会には市民のご参加を募り、議場内で共に考える機会を持ち得ました。また、議長室で研究会を開き、市民の方々と忌憚のない意見交換ができたことも有意義であったと思っております。

今後とも、更なる議会改革に取り組むとともに、行政へのチェック機能の充実と、的確な施策決定に務め、誰もが安心して生活できるまちづくりに向け、議員全員で鋭意努力を続けてまいります。

市民の皆様には、議会活動になお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健康・ご多幸を心から祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

市民ネット宝塚



井上 きよし



金岡 静夫



北野 聡子



伊福 義治



小山 哲史



寺本 早苗



近石 武夫



深尾 博和



浜崎 史孝

教育・福祉・議会改革 市民主役のまちづくり

市財政に黄色信号がともる中、行財政改革が進められていますが、単に事業を縮小するのではなく、必要などころは充実していく。そんなバランス感覚を持つて改革を実行していきます。

子どもたちが心豊かに育ち、市民がいきいき輝ける魅力あふれる宝塚とともに実現していきます。

みなさまとの対話の場「駅前議会」もすでに12回を迎えました。これから地方分権・市民自治の時代にふさわしい議会のあり方を模索しながら、市民側にしっかりと軸足を据えて政策提言を行ってまいります。

公明党議員団



中野 正



江原 和明



三宅 浩二



藤岡 和枝

市民の生活を守る 支援施策の充実を！

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年の世界同時株安等の影響を受け、本年も景気低迷が予想されます。宝塚市としても厳しい財政状況の中、市民の生活を守るため、生活支援の定額給付金や子育て応援特別手当の円滑な支給、また中小零細企業への緊急経済対策等の円滑実施をめざしてまいります。

議員は、公職選挙法により選挙区内の方に、年賀状等(答礼のための自筆によるものは除く)を出すことは禁止されています。皆さまのご理解をよろしくお願いいたします。

日本共産党宝塚市会議員団

悪政から住民のくらしを守る自治体へ！

貧困と格差が広がるなかで、高齢者を差別する医療制度導入など社会保障切り捨てや「バラマキ一瞬、増税一生」と批判される悪政に怒りの声が広がっています。今年こそ、この悪政を大きく転換させる年にしましょう。

昨年は子どもの医療費助成制度が拡充されました。引きつづき、福祉の向上に全力を尽くします。



草野 義雄



となき 正勝



たぶち 静子



田中 こう

自民党議員団

住んで安心・夢のあるまち宝塚を目指して！

謹んで新春のお慶びを申し上げます。宝塚市では行財政改革に真摯に取り組んできましたが、世界的な景気の低迷や国県の行財政改革等の影響もあり今も厳しい財政状況にあります。

市民の皆さまの声を市政に反映させ、メリハリの利いた市政運営を目指し、夢のあるまち宝塚を目指して頑張つて参ります。



村上 正明



山本 敬子



菊川 美善

爽新会

我が宝塚の未来のため爽やかに行動します。

19台のだんじりと地域の伝統文化を継承していくため、宝塚だんじり連合保存会が11月に発足。12月には宝塚ハーフマラソンが、遠来からの多くの参加を得て大成功。宝塚には、豊かな環境と元気な市民力そして知名度があります。

いま市政は困難な課題に直面していますが、市政の变革と財政健全化のため、頑固に発言していきます。



北山 照昭



坂下 賢治



石倉 加代子

議員は、公職選挙法により選挙区内の方に、年賀状等(答礼のための自筆によるものは除く)を出すことは禁止されています。皆様の一層のご理解をお願いいたします。

社会民主党議員団

競争でなく共創のまちを宝塚から発信!

恭賀新年

市場原理主義の浸透により、社会は、効率や成果を求めあまり「命」の重さを軽視しています。宝塚の財政状況は大変厳しく、選択と集中を迫られる中、私たちは判断のものさしとして「命を守る」視点を訴えてまいりました。市民の皆さん、対話による古くて新しい宝塚を共に創って行きませんか。



大島 淡紅子



梶川 みさお

無所属



多田 浩一郎

平成22年度までの収支不足41億。自身を削り議員定数4減の22へ今年こそ。

市民・職員も共に参加し 議場で議会研修会を開催

昨年11月18日に市議会議場におきまして議会研修会を開催いたしました。今回も市民にご参加いただき、議員と市幹部職員と共に熱心に講演をお聞きいただきました。

演題

「地方制度調査会の議論と議会改革」

講師

山梨学院大学法学部教授（第二十九次地方制度調査会委員）

江藤 俊昭氏

講演内容

第二十九次地方制度調査会の動向を踏まえ、全国初の「議会基本条例」を制定した北海道栗山町議会の事例を参考に、今後の議会改革の方向性について講演されました。

議会改革には、①住民に開かれた議会づくり、

一般質問FM放送のお知らせ
12月定例会の一般質問を、1月12日(月)から
の月(木曜日)、各日の午後1時からFM宝塚(83.5MHz)で放送します。
詳細は市議会ホームページ又は議会事務局へご
確認下さい。☎0797(77)2168

住民参加を促進し、②執行機関へのチェック機能を発揮し、③議会の存在意義である議員同士の討議と議決を重視する議会であるべきとされ、議会報告会の開催、重要な議案に対する議員の賛否の公表、市長や市職員の反問権(議員に逆質問する権利)の付与等が必要であるとされました。

また、地方制度調査会の議会に関する見直し事項としては、①監査機能の充実強化として、監査委員を議会の選挙により選出する。②幅広い層が議員活動できるための環境整備として、休日議会の開催や立候補への休職・復職制度の導入などが検討されたとのことでした。

今回参加の市民の方からは、議場を使用しての講演について、また、内容について概ね良かったとの感想をいただきました。

今後も、市民の声を聴き、開かれた議会を目指して改革に取り組んで参ります。

議員は、公職選挙法により選挙区内の方に、年賀状等(答礼のための自筆によるものは除く)を出すことは禁止されています。皆様の一層のご理解をお願いいたします。